イグナティオスの手紙

アンテオケのイグナティオス

藤遥　制作

エペソ人への手紙　あいさつ、1～10章　監督と心を合わせる

0:1テオフォロスとも呼ばれるイグナティオスから、アジヤのエペソにある教会へ。幸いと呼ばれるにふさわしいこの教会は、父なる神の満ちあふれる豊かさによって、偉大さのうちに祝福されています。世々の前から、いつまでもとどまって変わらない栄光に至るよう、前もって定められています。そして、父とわたしたちの神イエス・キリストのみこころのうちに、まことの受難において一つに結ばれ、選ばれています。この教会に、イエス・キリストにあって、責められるところのない喜びのうちに、心からあいさつを送ります。

1:1わたしは神にあって、多くの人に愛されているあなたがたの名を迎えました。あなたがたは、わたしたちの救い主キリスト・イエスにある信仰と愛にしたがい、正しい本性によって、その名を得ています。あなたがたは神にならう者として、神の血によって燃え立ち、本性にかなったわざを完全に果たしました。1:2実際、あなたがたは、わたしのことを聞きました。わたしは、わたしたちに共通の名と望みのために縛られて、シリヤから来ました。そして、あなたがたの祈りによって、ローマで獣と戦うことを果たしたいと望んでいます。それを果たして、弟子となることができるためです。そう聞いて、あなたがたは、急いでわたしに会いに来てくれたのです。1:3こうして、わたしは神の名によって、オネシモのうちに、大勢のあなたがたを迎えました。オネシモは、言い尽くせない愛の人で、あなたがたの監督です。わたしは、あなたがたがイエス・キリストにしたがって彼を愛し、皆が彼に似た者となるよう祈ります。実際、ふさわしいあなたがたに、このような監督を持つことを恵まれた方は、ほむべき方です。

2:1わたしと同じしもべであるブルスについて。彼は、あなたがたの、神にしたがう執事で、すべてにおいて祝福されています。わたしは、彼があなたがたと監督の誉れとなるよう、わたしのもとにとどまってくれるよう祈っています。また、クロコスも、神にもあなたがたにもふさわしい人です。わたしは彼を、あなたがたの愛の見本として迎えました。彼は、オネシモ、ブルス、エウプロス、フロントとともに、あらゆる点でわたしを休ませてくれました。イエス・キリストの父が、彼をも元気づけてくださいますように。わたしは、この人たちによって、愛のうちにあなたがた皆に会ったのです。2:2わたしが、いつもあなたがたから喜びを得ることができますように。わたしがそれにふさわしければですが。ですから、あなたがたは、あらゆる仕方で、あなたがたに栄光を与えられたイエス・キリストに栄光を帰すのがふさわしいのです。それは、一つの従順のうちに整えられ、監督と長老会に従って、すべてにおいてきよめられた者となるためです。

3:1わたしは、ひとかどの者であるかのように、あなたがたに命じているのではありません。実際、わたしは御名のために縛られてはいますが、まだイエス・キリストにあって完全な者とされてはいません。今ようやく、弟子となり始めたところなのです。そして、わたしと共に学ぶ者であるあなたがたに、語りかけています。わたしのほうこそ、あなたがたから、信仰、戒め、忍耐、辛抱強さという油を塗ってもらうべきだったからです。3:2しかし、愛は、わたしがあなたがたについて黙っていることを許しません。それゆえ、わたしは先に立って、あなたがたに勧めることにしました。あなたがたが、神の思いと歩調を合わせるためです。わたしたちの切り離せないいのちであるイエス・キリストも、父の思いなのです。同じように、地の果てまで立てられた監督たちも、イエス・キリストの思いのうちにいるのです。

4:1ですから、あなたがたは、監督の思いと歩調を合わせるのがふさわしいのです。あなたがたは、すでにそうしています。実際、名高く、神にふさわしいあなたがたの長老会は、琴に弦が合わさるように、監督としっかり調和しています。それゆえ、あなたがたの一致と、調べの合った愛のうちに、イエス・キリストが歌われているのです。4:2あなたがたも、一人残らず合唱隊となりなさい。心を一つにして調べを合わせ、一つになって神の調子を受け取り、イエス・キリスト

によって、声を一つにして父に歌うためです。それは、父があなたがたに耳を傾け、あなたがたの善い行いによって、あなたがたが御子の肢体であると認めてくださるためです。ですから、あなたがたが、責められるところなく一つになっていることは、益になります。いつも神にあずかるためです。

5:1 実際、わたしは短いあいだに、あなたがたの監督と、これほど親しい交わりを持ちました。それは人間の交わりではなく、霊の交わりです。まして、わたしはあなたがたを、どれほど幸いだと思うことでしょうか。あなたがたは監督と一つに溶け合っています。教会がイエス・キリストと、イエス・キリストが父と溶け合っているのと同じです。すべてが一つになって、調べを合わせるためです。5:2 だれも思い違いをしてはなりません。祭壇の内側にいない者は、神のパンにあずかれません。一人か二人の祈りにも、これほどの力があるのです。まして、監督と教会全体との祈りは、どれほどでしょうか。5:3 ですから、集まりに来ない者は、すでに高ぶっており、自分を皆から分けたのです。こう書いてあるからです。『神は高ぶる者をしりぞける』（箴言三・三四）。ですから、監督に逆らわないよう努めましょう。神に従う者となるためです。

6:1 また、だれでも、監督が黙っているのを見れば見るほど、いっそう監督を恐れなさい。実際、家の主人は、自分の家を治めさせるために人を遣わします。わたしたちは、その者がだれであっても、遣わした方そのものと同じように迎えなければなりません。ですから、監督を主ご自身と同じように仰がなければならないのは、明らかです。6:2 オネシモ自身も、神にあるあなたがたの秩序正しさを、大いにほめています。あなたがたが皆、真理にしたがって生きていること、あなたがたのうちに分派が一つも住みついていないことを、ほめているのです。それどころか、あなたがたは、イエス・キリストについて真理のうちに語る人のほかは、だれの言うことにも耳を貸しません。

7:1 実際、ある人たちは、悪い偽りをもって、御名を持ち歩くのを常とし、そのくせ、神にふさわしくない別のことを行っています。あなたがたは、そのような者たちを、獣を避けるように避けなければなりません。彼らは狂った犬で、こっそりかみつくのです。彼らは治りにくいので、あなたがたは用心しなければなりません。7:2 医者はただ一人です。肉の方であり、霊の方。生まれた方であり、生まれたのでない方。人のうちにある神、死のうちにあるまことのいのち。マリヤから出た方であり、神から出た方。はじめは苦しみを受けうる方、そののちには苦しみを受けない方。わたしたちの主イエス・キリストです。

8:1 ですから、だれもあなたがたを欺いてはなりません。もっとも、あなたがたは欺かれてもいません。すっかり神のものだからです。実際、あなたがたを苦しめうる争い[1]が一つも根を下ろしていないなら、あなたがたは確かに神にしたがって生きています。わたしは、あなたがたのくずです。世々に名の知れ渡った、エペソのあなたがたの教会のために、わたしはささげ物となります。8:2 肉の者は霊のことを行うことができません。霊の者も肉のことを行うことはできません。信仰が不信仰のわざを行えず、不信仰が信仰のわざを行えないのと同じです。しかし、あなたがたが肉において行うことでさえ、霊のことなのです。あなたがたは、すべてを、イエス・キリストにあって行っているからです。

9:1 わたしは、悪い教えを持った人たちが、あちらから来て、あなたがたのところを通っていったと知りました。しかし、あなたがたは、彼らにあなたがたの中で種をまかせませんでした。耳をふさいで、彼らのまくものを受け入れなかったのです。あなたがたは、父の宮の石だからです。父なる神の建物のために備えられています。そして、聖霊を綱として用い、イエス・キリストの起重機、すなわち十字架によって、高みへ引き上げられています。あなたがたの信仰は、あなたがたを引き上げる巻き上げ機であり、愛は神へと上っていく道です。9:2 ですから、あなたがたは皆、共に行列を進む者です。神を担う者、宮を担う者、キリストを担う者、聖なるものを担う者です。そして、すべてにおいてイエス・キリストの戒めで飾られています。わたしもそのことを喜び、この手紙によって、あなたがたと語り合い、共に喜ぶにふさわしい者とされました。あなたがたが、人の生き方においては、ただ神のほかに何も愛さないからです。

10:1 ほかの人々のためにも、絶えず祈りなさい。彼らが神に達するためです。実際、彼らにも悔い改めの望みがあるのです。ですから、彼らが、せめてあなたがたの行いを見て、あなたがたの弟子となれるようにしなさい。10:2 彼らの怒りには、柔和でありなさい。彼らの高慢な言葉には、へりくだりなさい。彼らののしりには、祈りをもって応えなさい。彼らの迷いには、信仰にしっかり立ちな

さい。彼らの荒々しさには、仕返しに彼らのまねをしようとせず、穏やかでありなさい。10:3 寛容によって、彼らの兄弟と認められるようにしましょう。しかし、主にならう者となるよう努めましょう。だれがいちばん不当な扱いを受け、だれがいちばん奪われ、だれがいちばん退けられるかを、競うのです。それは、悪魔の草が一本も、あなたがたのうちに見つからないためです。むしろ、あなたがたが、あらゆる清さと慎みのうちに、肉においても霊においても、イエス・キリストのうちにとどまるためです。

訳注

1 古い訳などには『欲望』と読むものがある。

エペソ人への手紙　11〜21章　沈黙のうちに行われた奥義

11:1 今は終わりの時です。これからは恥じ入りましょう。神の辛抱強さを恐れましょう。それが、わたしたちへのさばきとならないためです。実際、来るべき怒りを恐れるか、今ある恵みを愛するか、二つのうちどちらかにしましょう。ただ、まことのいのちに至るよう、キリスト・イエスにあって見いだされるようにしましょう。11:2 この方を離れては、何もあなたがたの飾りとなってはなりません。この方にあって、わたしは鎖を身に帯びています。この鎖は霊の真珠です。あなたがたの祈りによって、わたしがこの真珠を身にまとって、よみがえることができますように。わたしが、いつもその祈りにあずかる者でありますように。エペソのキリスト者たちの列のうちに、わたしが見いだされるためです。彼らは、イエス・キリストの力によって、いつも使徒たちとも心を合わせてきました。

12:1 わたしは、自分がだれであり、だれに書いているかを知っています。わたしは罪に定められた者、あなたがたはあわれみを受けた者です。わたしは危険のもとにあり、あなたがたは堅く立てられています。12:2 あなたがたは、神のもとへ行くために殺される者たちの通り道です。聖とされたパウロと共に、奥義にあずかった者たちです。パウロはよいあかしを受け、幸いと呼ばれるにふさわしい人です。わたしが神に達するとき、その足跡のうちに見いだされますように。パウロは、どの手紙でも、キリスト・イエスにあってあなたがたのことを覚えています。

13:1 ですから、神に感謝をささげ、栄光を帰すために、もっと頻繁に集まるよう努めなさい。実際、あなたがたが頻繁に一つ所に集まると、サタンの力は打ち倒されます。そして、サタンのもたらす滅びは、あなたがたの信仰の一致のうちに解かれるのです。13:2 平和にまさるものはありません。平和のうちに、天のものと地のもののあらゆる戦いが、無にされるのです。

14:1 これらのことは何一つ、あなたがたに隠れていません。あなたがたがイエス・キリストに対して、完全に信仰と愛を持っているならばです。信仰と愛は、いのちの初めと終わりです。初めは信仰、終わりは愛です。この二つが一つになると、それは神です。ほかのすべては、この二つに続いて、気高い善に至らせるものです。14:2 信仰を公言する者は、だれも罪を犯しません。愛を自分のものとした者は、だれも憎みません。木はその実によって明らかになります。同じように、キリストのものだと公言する者たちは、その行いによって見分けられます。実際、今求められているのは、公言するだけのわざではありません。最後まで信仰の力のうちに見いだされるかどうかです。

15:1 黙っていて実のあるほうが、語っていて実のないよりもまさっています。教えることは良いことです。言う者が行うのならばです。ですから、教師はただ一人です。その方が仰せられると、そのようになりました。そして、その方が黙って行われたことも、父にふさわしいのです。15:2 イエスのことばをまことに自分のものとした者は、その方の沈黙をも聞くことができます。完全な者となるためです。語ることによって行い、黙っていることによって知られるためです。15:3 主に隠れているものは何もありません。わたしたちの隠れたことさえ、主の近くにあります。ですから、主がわたしたちのうちに住んでおられると思って、すべてを行いましょう。わたしたちが主の宮となり、主ご自身がわたしたちのうちにいて、わたしたちの神となられるためです。このことは今もそうであり、わたしたちの目の前に現れるでしょう。わたしたちが主を正しく愛することによってです。

16:1 わたしの兄弟たちよ、思い違いをしてはなりません。家を汚す者は、神の国をつぐことはありません。16:2 ですから、肉においてこれらのことを行った者たちは死にました。まして、悪い教えによって神の信仰を損なう者は、どれほどでしょうか。その信仰のために、イエス・キリストは十字架につけられたので

す。そのような者は汚れた者となり、消えない火の中に行きます。その者に耳を傾ける者も同じです。

17:1 主がその頭に香油を受けられたのは、教会に朽ちないことを吹き込むためです。この世の君の教えの悪臭を、身に塗ってはなりません。彼が、あなたがたをとりこにして、前に置かれているいのちから連れ去らないためです。17:2 なぜ、わたしたちは皆、神の知識を受けて賢い者とならないのでしょうか。神の知識とは、イエス・キリストです。なぜ、主がまことに遣わされた賜物を知らずに、愚かにも滅びていくのでしょうか。

18:1 わたしの霊は、十字架のためのくずです。十字架は、信じない者にはつまずきですが、わたしたちには救いであり、永遠のいのちです。知者はどこにいるのですか。論者はどこにいるのですか。賢いと言われる者たちの誇りは、どこにあるのですか。18:2 実際、わたしたちの神イエス・キリストは、神の計画にしたがって、マリヤの胎に宿られました。ダビデの子孫から出て、また聖霊から出た方です。この方は生まれ、バプテスマを受けられました。受難によって水を清めるためです。

19:1 マリヤの処女であることとその出産、また主の死も、この世の君には隠されていました。これらは、声高く告げられる三つの奥義で、神の沈黙のうちに行われたのです。19:2 では、これらの奥義は、どのようにして代々の世に現されたのでしょうか。天に一つの星が輝きました。すべての星にまさる輝きでした。その光は言い表せないほどで、その新しさは驚きを呼び起こしました。ほかの星々はみな、太陽や月と共に、その星を囲む合唱隊となりました。しかし、その星の光は、すべてにまさっていました。そして、ほかの星々に似ないこの新しさがどこから来たのかと、騒ぎが起こりました。19:3 そのため、すべての魔術は解かれ、悪のすべての縄目は消え去りました。無知は取り除かれました。神が永遠のいのちという新しさのために人として現れられたとき、古い王国は滅ぼされたのです。神のもとで仕上げられていたことが、始まりました。そこから、すべてのものが揺り動かされました。死を滅ぼすことが、はかられていたからです。

20:1 わたしは、これから第二の書をあなたがたに書くつもりです。あなたがたの祈りによって、イエス・キリストがわたしをふさわしい者としてくださるなら、その書でさらに説き明かします。それがみこころであるならばです。わたしが語り始めた、新しい人イエス・キリストについての計画のことです。それは、その方への信仰と愛、その方の受難と復活にかかわる計画です。20:2 とくに、主が次のことをわたしに示してくださるなら、そうします[1]。それは、あなたがたが一人ひとり皆、御名によって、恵みのうちに共に集まっているということです。一つの信仰のうちに、またイエス・キリストにあって集まっていることです。この方は、肉においてはダビデの家系から出た方で、人の子であり、神の子です。あなたがたは、乱れのない心で監督と長老会に聞き従うために、一つのパンを裂いて集まっています。そのパンは不死の薬であり、死ぬことなく、イエス・キリストにあっていつまでも生きるための解毒剤です。

21:1 わたしは、あなたがたのために、また、あなたがたが神の誉れのためにスミルナへ遣わした人々のために、身をささげる者です。わたしは主に感謝し、あなたがたと同じようにポリュカルポスを愛しつつ、そのスミルナからあなたがたに書いています。イエス・キリストがあなたがたを覚えておられるように、あなたがたもわたしのことを覚えていなさい。21:2 シリヤにある教会のために祈りなさい。わたしは、そこの信者たちの中で最も小さい者でありながら、縛られて、そこからローマへ引かれていきます。そのようにして、神の誉れのために見いだされるにふさわしい者とされたのです。父なる神にあって、また、わたしたちに共通の望みであるイエス・キリストにあって、お元気で。

訳注

1 本文が崩れているとみられ、『何かを示されたら』で切り、後を勧めとする説もある。

マグネシア人への手紙　あいさつ、1〜15章　ユダヤ教に戻らない

0:1 テオフォロスとも呼ばれるイグナティオスから、マイアンドロス川のほとりのマグネシアにある教会へ。この教会は、父なる神の恵みのうちに、わたしたちの救い主キリスト・イエスにあって祝福されています。わたしはこの方にあって、この教会にあいさつを送ります。そして、父なる神にあって、またイエス・キリストにあって、大いに喜びがあるよう祈ります。

1:1 あなたがたの愛は、神にしたがっていて、よく整っています。わたしはそれを知って、喜びにあふれつつ、イエス・キリストへの信仰のうちに、あなたがたに語りかけることにしました。1:2 実際、わたしは、このうえなく神にかなう名にふさわしい者とされて、身に帯びている鎖の中で、諸教会をたたえて歌っています。わたしは、諸教会のうちに結びつきがあるよう祈ります。それは、わたしたちのいつまでも続くいのちであるイエス・キリストの、肉と霊との結びつきです。また、信仰と愛との結びつきです。愛にまさるものは何もありません。そして何よりも大切なのは、イエスと父との結びつきです。この方にあって、この世の君のあらゆる虐げを耐え忍び、それを逃れるなら、わたしたちは神に達するでしょう。

2:1 さて、わたしは、あなたがたに会うにふさわしい者とされました。神にふさわしいあなたがたの監督ダマスと、ふさわしい長老であるバッソスとアポロニオスによってです。また、わたしと同じしもべである執事ゾティオンによってです。わたしが、彼から喜びを得ることができますように。彼は、神の恵みに従うように監督に従い、イエス・キリストの律法に従うように長老会に従っているからです。

3:1 あなたがたも、監督が若いことにつけこまず、父なる神の力にしたがって、あらゆる敬意を彼に払うのがふさわしいのです。わたしの知るところでは、聖なる長老たちも、見たところ若い彼の年齢につけこみません。神にあって賢い者として、彼に譲っています。いや、彼にではなく、イエス・キリストの父、すべての者の監督に譲っているのです。3:2 ですから、わたしたちを望まれた方の誉れのために、偽ることなく聞き従うのがふさわしいのです。そうでないと、人は、目に見えるこの監督を惑わすのではなく、目に見えない方を欺くことになるからです。このようなことでは、申し開きをする相手は肉ではなく、隠れたことを知っておられる神です。

4:1 ですから、キリスト者と呼ばれるだけでなく、実際にキリスト者であるのがふさわしいのです。ある人々は、監督を監督と呼びながら、監督を離れて何でも行っています。そのような者たちは、正しい良心を持っているとは、わたしには思えません。戒めにしたがって、正しい形で集まっていないからです。

5:1 さて、物事には終わりがあります。そして、二つのものが共に目の前に置かれています。死といのちです。人はそれぞれ、自分の行くべきところへ行くことになっています。5:2 実際、二種類の貨幣があります。一つは神の貨幣、もう一つは世の貨幣です。それぞれに、それぞれの刻印が押されています。不信者はこの世の刻印を、信者は愛のうちに、イエス・キリストによって父なる神の刻印を帯びています。この方によって、自ら進んでその受難にあずかって死ぬのでなければ、この方のいのちは、わたしたちのうちにありません。

6:1 さて、わたしは、先に書いた人々のうちに、群れ全体を信仰のうちに見て、愛しました。そこで勧めます。神にある一致のうちに、すべてを行うよう努めなさい。監督が神の座に、長老たちが使徒たちの会議の座に着いて、上に立つもとでです。わたしにとって最も慕わしい執事たちも、イエス・キリストに仕える務めをゆだねられて、共にいるもとでです。この方は、世々の前から父のもとにおられ、終わりの時に現れられました。6:2 ですから、あなたがたは皆、神に似た心を受けて、互いに敬いなさい。だれも、肉において隣人を見てはなりません。むしろ、イエス・キリストにあって、いつも互いに愛し合いなさい。あなたがたを分けることのできるものは、あなたがたのうちに何もあってはなりません。か

えって、監督と、上に立つ人々と一つになりなさい。朽ちないことのひな型として、また教えとしてです。

7:1 ですから、主は父と一つであられ、父を離れては何もなさいませんでした。ご自分によっても、使徒たちによってもです。同じように、あなたがたも、監督と長老たちを離れては、何も行ってはなりません。また、自分たちだけで、何かを理にかなったことと思おうとしてはなりません。かえって、一つ所に集まって、一つの祈り、一つの願い、一つの考え、一つの望みを持ちなさい。愛のうちに、責められるところのない喜びのうちにです。それがイエス・キリストであり、この方にまさるものは何もありません。7:2 皆、神の一つの宮に向かうように、一つの祭壇のもとに向かうように、共に駆け寄りなさい。ただ一人のイエス・キリストのもとにです。この方は、ただ一人の父から出て、ただ一人の方のうちにおられ、その方のもとへ帰って行かれました。

8:1 異なる教えや、古い作り話に惑わされてはなりません。それらは役に立たないものです。実際、もし今に至るまでユダヤ教にしたがって生きているなら、わたしたちは、恵みを受けていないと認めていることになります。8:2 最も神聖な預言者たちは、キリスト・イエスにしたがって生きたのです。それゆえ、この方の恵みによって霊感を受けていた彼らは、迫害も受けました。聞き従わない者たちに確信させるためです。神はただ一人であり、その御子イエス・キリストによってご自分を現された、と。御子は、沈黙から出た神のことば[1]であり、すべてにおいて、ご自分を遣わされた方に喜ばれました。

9:1 古いならわしのうちに歩んでいた人々でさえ、新しい望みに至りました。もはや安息日を守らず、主の日にしたがって生きています。その日に、わたしたちのいのちも、この方とその死によって昇ったのです。ある人々は、その死を否定します。この奥義によって、わたしたちは信仰を受けました。わたしたちが耐え忍んでいるのは、ただ一人の教師であるイエス・キリストの弟子として見いだされるためです。9:2 この方は、預言者たちでさえ、霊においてその弟子であって、教師として待ち望んだ方です。それなら、その方を離れて、わたしたちは、どうして生きることができるでしょうか。それゆえ、彼らが正しく待ち望んでいた方は、来られて、彼らを死人の中からよみがえらせられたのです。

10:1 ですから、この方の慈しみに無感覚にならないようにしましょう。実際、もしこの方が、わたしたちのするとおりにわたしたちを扱われるなら、わたしたちはもう存在しないのです。それゆえ、この方の弟子となった者として、キリスト教にしたがって生きることを学びましょう。この名のほかに別の名で呼ばれる者は、神のものではないのです。10:2 ですから、古くなって酸っぱくなった悪いパン種を捨て、新しいパン種に変わりなさい。新しいパン種とは、イエス・キリストです。この方にあって塩づけられなさい。あなたがたのうちのだれも腐ることがないためです。あなたがたは、そのにおいによって見抜かれるからです。10:3 イエス・キリストを口にしながら、ユダヤ人のように生活するのは、筋違いです。実際、キリスト教がユダヤ教を信じたのではなく、ユダヤ教がキリスト教を信じたのです。そのキリスト教に、神を信じるすべての国語の民が集められました。

11:1 わたしの愛する者たちよ、これらのことを書くのは、あなたがたのだれかがそうだと知ったからではありません。あなたがたより小さい者として、前もって用心してほしいのです。むなしい考えの釣り針にかからないでほしいのです。むしろ、誕生と受難と復活について、確信を持っていてほしいのです。それは、ポンテオ・ピラトが総督であったときに起こりました。これらのことは、わたしたちの望みであるイエス・キリストによって、まことに、確かに行われたのです。あなたがたのうちのだれも、この望みからそれることがありませんように。

12:1 わたしが、すべてにおいてあなたがたから喜びを得ることができますように。わたしがそれにふさわしければですが。実際、わたしは縛られていますが、解き放たれているあなたがたの一人にも及びません。わたしは、あなたがたが高ぶっていないことを知っています。あなたがたは、自分のうちにイエス・キリストを持っているからです。むしろ、わたしがあなたがたをほめると、あなたがたが恥じ入ることを、わたしは知っています。『正しい者は自分を訴える』と書いてあるとおりです（箴言一八・一七）。

13:1 ですから、主と使徒たちの定めのうちに、堅く立つよう努めなさい。あなたがたのなすところが皆栄えるためです。肉においても霊においても、信仰においても愛においても、御子と父と御霊にあって、初めにも終わりにもです。この

うえなくふさわしいあなたがたの監督と共にです。また、ふさわしく編まれた霊の冠である長老会と、神にしたがう執事たちと共にです。13:2 イエス・キリストが父に従われ、使徒たちがキリストと父とに従ったように、監督に従い、また互いに従いなさい。肉の結びつきも霊の結びつきも、共にあるためです。

14:1 あなたがたが神に満たされていることを知っているので、わたしは手短に促しました。あなたがたの祈りのうちに、わたしのことを覚えていなさい。わたしが神に達するためです。また、シリヤにある教会のことも覚えていなさい。わたしは、その教会の一員と呼ばれるにもふさわしくありません。実際、わたしには、神にあって一つになったあなたがたの祈りと愛が必要です。シリヤにある教会が、あなたがたの教会によって露にうるおされるにふさわしいものとされるためです。

15:1 スミルナから、エペソ人たちがあなたがたにあいさつを送っています。わたしもそのスミルナから、あなたがたに書いています。彼らは、神の栄光のために、あなたがたと同じようにここに来ています。そして、スミルナ人の監督ポリュカルポスと共に、すべてにおいてわたしを休ませてくれました。ほかの諸教会も、イエス・キリストの誉れのうちに、あなたがたにあいさつを送っています。揺るがない霊を自分のものとして、神にある一致のうちに、お元気で。それがイエス・キリストです。

訳注

1 ある写本では『沈黙から出たのではない永遠のことば』となっている。

トラレス人への手紙　あいさつ、1〜13章　まことに苦しまれたキリスト

0:1 テオフォロスとも呼ばれるイグナティオスから、アジヤのトラレスにある聖なる教会へ。この教会は、イエス・キリストの父である神に愛され、選ばれていて、神にふさわしいものです。そして、イエス・キリストの受難によって、肉においても霊[1]においても平安を得ています。イエス・キリストはわたしたちの望みです。わたしたちがこの方のもとへよみがえることにおいてです。わたしは、満ちあふれる豊かさのうちに、使徒たちの流儀で、この教会にあいさつを送ります。そして、大いに喜びがあるよう祈ります。

1:1 あなたがたが、忍耐のうちに、責められるところのない、揺るがない心を持っていることを、わたしは知りました。習いにしたがってではなく、本性にしたがってです。あなたがたの監督ポリュビオスが、わたしにそれを明らかにしてくれました。彼は、神とイエス・キリストのみこころによってスミルナに来ました。そして、キリスト・イエスにあって縛られているわたしと、共に大いに喜んでくれました。それで、わたしは、彼のうちにあなたがたの群れ全体を見たのです。1:2 そこで、わたしは、神にしたがうあなたがたの好意を彼によって受け、神をあがめました。わたしの知ったとおり、あなたがたが神にならう者であるのを見いだしたからです。

2:1 実際、あなたがたがイエス・キリストに従うように監督に従うとき、わたしにはこう見えます。あなたがたは、人にしたがってではなく、イエス・キリストにしたがって生きている、と。この方は、わたしたちのために死なれました。あなたがたが、その死を信じて、死を逃れるためです。2:2 ですから、あなたがたが今しているとおり、監督を離れては何も行わないことが必要です。また、長老会にも、わたしたちの望みであるイエス・キリストの使徒たちに従うように従うことが必要です。この方のうちに日々を過ごすなら、わたしたちは見いだされるでしょう。2:3 また、執事たちも、イエス・キリストの奥義の執事なのですから、あらゆる仕方で、すべての人に喜ばれなければなりません。実際、彼らは食べ物や飲み物の執事ではなく、神の教会に仕える者です。ですから、彼らは、とがめを受けないよう、火を避けるように身を守らなければなりません。

3:1 同じように、皆、執事たちをイエス・キリストのように敬いなさい。父のひな型である監督を敬うのと同じです。長老たちを、神の会議として、また使徒たちの一団として敬いなさい。これらの人々なしには、教会とは呼ばれません。3:2 あなたがたがこのようにしていることを、わたしは確信しています。実際、わたしは、あなたがたの愛の見本を、あなたがたの監督のうちに受け取り、今も手もとに持っています。彼の振る舞いそのものが大きな教えであり、彼の柔和は力です。神なき者たちでさえ彼を敬っている、とわたしは思います。3:3 わたしは、このことについて、もっと厳しく書くこともできますが、あなたがたを愛しているので、控えています。わたしは、罪に定められた者でありながら、使徒のようにあなたがたに命じよう、とまでは考えませんでした。

4:1 わたしは、神にあって多くのことを考えています。しかし、誇って滅びることのないよう、自分を量っています。実際、今、わたしはいっそう恐れ、わたしを高ぶらせる人々に心を向けないようにしなければなりません。わたしにそう言う人々は、わたしを鞭打っているのです。4:2 実際、わたしは苦しみを受けることを愛していますが、それにふさわしいかどうかは分かりません。ねたみは、多くの人には見えませんが、わたしには、いっそう激しく戦いを挑んでくるのです。ですから、わたしには柔和が必要です。その柔和のうちに、この世の君は滅ぼされるのです。

5:1 わたしが、天上のことをあなたがたに書くことができないとでも言うのですか。しかし、幼な子であるあなたがたに、害になるものを出してしまわないかと恐れるのです。わたしを許しなさい。あなたがたが受け入れることができずに、のどを詰まらせることのないためです。5:2 実際、わたし自身、縛られていて、天上のことを悟ることができます。御使たちの配置も、支配者たちの集まりも、

見えるものも見えないものもです。しかし、わたしも、そのゆえに、もう弟子であるというのではありません。神を欠く者とならないためには、わたしたちには、まだ多くのものが欠けているのです。

6:1 ですから、わたしはあなたがたに勧めます。いや、わたしではなく、イエス・キリストの愛が勧めるのです。キリスト者の食べ物だけを用い、よその草を断ちなさい。それは分派です。6:2 そのような者たちは、信用できる者のようにふるまって、イエス・キリストを自分たちに織り交ぜています。2 まるで、死をもたらす毒を、蜜を混ぜたぶどう酒とともに与えるようなものです。知らない者は、それを喜んで受け、悪い快楽のうちに死を受け取ります。

7:1 ですから、そのような者たちに用心しなさい。あなたがたが高ぶらず、神から、イエス・キリストから、監督から、使徒たちの指示から離れないでいるなら、そうできるでしょう。7:2 祭壇の内側にいる者は清いのです。しかし、祭壇の外側にいる者は清くありません。つまり、監督と長老会と執事たちを離れて何かを行う者は、良心において清くないのです。

8:1 わたしがこう言うのは、あなたがたのうちにそのようなことがあると知ったからではありません。あなたがたはわたしの愛する者たちなので、悪魔のわなを前もって見て、あなたがたに用心させているのです。ですから、あなたがたは柔和な心を身につけ、信仰のうちに自分を立て直しなさい。信仰は主の肉です。また、愛のうちに自分を立て直しなさい。愛はイエス・キリストの血です。8:2 あなたがたのうちのだれも、隣人に対して何かを抱いてはなりません。異邦人に、そしられるすきを与えてはなりません。少数の愚かな者たちのゆえに、神にある群れがそしられないためです。『わたしの名を、むなしいことのために、ある人々の間でそしらせる者は、わざわいである』からです（イザヤ五二・五）。

9:1 ですから、だれかがイエス・キリストを抜きにして語るときには、耳をふさぎなさい。この方は、ダビデの家系から出た方、マリヤから出た方です。この方は、まことにお生まれになり、食べ、また飲まれました。ポンテオ・ピラトのもとで、まことに迫害を受けられました。まことに十字架につけられ、死なれました。天上のもの、地上のもの、地下のものが見ているうちにです。9:2 この方は、父がよみがえらせられたとき、まことに死人の中からよみがえられました。同じように、この方を信じるわたしたちをも、その父はキリスト・イエスにあってよみがえらせてくださいます。この方を離れては、わたしたちは、まことのいのちを持っていません。

10:1 ある人々は、神なき者たち、つまり不信者たちであって、この方の苦しみは見せかけだったと言います。見せかけなのは、彼ら自身のほうです。もしそのとおりなら、なぜわたしは縛られているのですか。また、なぜ獣と戦うことを祈っているのですか。それなら、わたしはむだに死ぬのです。それなら、わたしは主について偽りを言っていることになります。

11:1 ですから、悪いひこばえを避けなさい。それは死をもたらす実を結びます。その実を味わう者は、たちまち死にます。実際、彼らは父がお植えになったものではありません。11:2 もしそうであったなら、彼らは十字架の枝として現れたはずです。その実も朽ちないものであったはずなのです。その十字架によって、キリストは、ご自分の受難のうちに、ご自分の肢体であるあなたがたを招いておられます。ですから、神が結びつきを約束しておられる以上、頭が肢体なしにそれだけで生まれることはできません。その結びつきとは、神ご自身です。

12:1 わたしは、スミルナから、わたしと共にいる神の諸教会と一緒に、あなたがたにあいさつを送ります。この人々は、肉においても霊においても、すべてにおいてわたしを休ませてくれました。12:2 神に達することを願いつつ、イエス・キリストのために身に帯びているわたしの鎖が、あなたがたに勧めます。あなたがたの一致と、互いに共にする祈りのうちに、とどまり続けなさい。実際、あなたがた一人ひとりが、とりわけ長老たちが、監督を元気づけるのがふさわしいのです。父と、イエス・キリストと、使徒たちの誉れのためです。12:3 わたしは、あなたがたが愛のうちにわたしに聞き従うよう祈ります。わたしが書き送ったことによって、あなたがたを責める証しとならないためです。また、神のあわれみのうちに、あなたがたの愛を必要としているわたしのためにも祈りなさい。わたしが得ることになっている分に、ふさわしい者とされるためです。失格者と見いだされないためです。

13:1 スミルナ人とエペソ人の愛が、あなたがたにあいさつを送っています。あなたがたの祈りのうちに、シリヤにある教会を覚えていなさい。わたしは、そこ

の信者たちの中で最も小さい者なので、その一員と呼ばれるにもふさわしくありません。13:2 監督に、戒めに従うように従い、長老会にも同じように従って、イエス・キリストにあって、お元気で。また、一人ひとり、分かたれない心で、互いに愛し合いなさい。13:3 わたしの霊は、あなたがたのためのささげ物となります。今だけでなく、わたしが神に達するときもです。実際、わたしは、まだ危険のもとにあります。しかし、父は、イエス・キリストにあって、わたしの願いもあなたがたの願いも満たしてくださる、真実な方です。キリストにあって、あなたがたが責められるところのない者として見いだされますように。

訳注

1 古い写本と訳の多くは『霊』でなく『血』と読む。

2 本文が崩れた箇所で、『イエス・キリストに毒を混ぜる』と読む説もある。

ローマ人への手紙　あいさつ、1〜10章　わたしは神の小麦

0:1テオフォロスとも呼ばれるイグナティオスから、教会へ。この教会は、いと高き父と、その方のただ一人の子イエス・キリストの偉大さのうちに、あわれみを受けています。存在するすべてのものを望まれた方のみこころのうちに、愛され、照らされています。わたしたちの神イエス・キリストの愛にしたがってです。そして、ローマ人の地の領域で上に立っています。神にふさわしく、敬われるにふさわしく、幸いと呼ばれるにふさわしい教会です。ほめられるにふさわしく、達するにふさわしく、清くあるにふさわしい教会です。また、愛においても上に立ち、キリストの名を帯び[1]、父の名を帯びています。わたしは、父の子イエス・キリストの名によって、この教会にあいさつを送ります。そこにいる人々は、肉においても霊においても、その方のすべての戒めに結ばれています。神の恵みに揺るがずに満たされ、あらゆるよその色からこし分けられています。この人々に、わたしたちの神イエス・キリストにあって、責められるところなく、心からあいさつを送ります。

1:1さて、わたしは神に祈って、神にふさわしいあなたがたの顔を見ることを果たせるようになりました。求めていた以上のものを受けたのです。実際、わたしは、キリスト・イエスにあって縛られた者として、あなたがたにあいさつしたいと望んでいます。わたしが終わりにまで至るにふさわしい者とされることが、みこころであるならばです。1:2始まりは、よく整えられているのです。わたしが恵み[2]に達して、自分の分を妨げられずに受け取ることができるならばです。実際、わたしは、あなたがたの愛そのものがわたしを損なうのではないかと恐れています。あなたがたには、望むことを行うのはたやすいからです。しかし、わたしには、神に達するのは難しいのです。あなたがたが、わたしに構わずにおいてくれないならばです。

2:1わたしは、あなたがたが人に喜ばれようとすることではなく、神に喜ばれることを望んでいるのです。あなたがたが今も神に喜ばれているとおりにです。実際、わたしには、神に達するこのような時は二度と来ないでしょう。あなたがたも、黙っているなら、これにまさるわざに名を記されることはありません。あなたがたがわたしについて黙っているなら、わたしは神のことばとなるからです。しかし、わたしの肉を恋い慕うなら、わたしはまた、ただの声となるでしょう。2:2わたしが神へのそそぎの供え物とされること、それ以上のものを、わたしに与えてはなりません。祭壇がまだ備えられているうちにです。それは、あなたがたが愛のうちに合唱隊となって、キリスト・イエスにあって父に歌うためです。神が、シリヤの監督を日の昇る地から呼び寄せられ、日の沈む地に見いだされるにふさわしい者としてくださったことを歌うのです。世から沈んで神のもとへ行くのは、良いことです。神のもとへ昇るためです。

3:1あなたがたは、だれをもそねんだことがありません。ほかの人々を教えてきました。わたしは、あなたがたが弟子を教えて命じていることが、確かなものとなることをも望んでいます。3:2ただ、わたしのために、内にも外にも力を求めなさい。わたしが、口で言うだけでなく、望むようになるためです。キリスト者と呼ばれるだけでなく、そうであると見いだされるためです。実際、そう見いだされるなら、そう呼ばれることもできます。そして、世に見えなくなるとき、忠実な者でありうるのです。3:3見えるもので良いものは、何もありません。実際、わたしたちの神イエス・キリストは、父のうちにおられるので、かえっていっそうはっきりと見えておられます。キリスト教が世に憎まれるとき、それは説き伏せるわざではなく、偉大さのわざなのです。

4:1わたしは、すべての教会に書き送り、皆に命じています。あなたがたが妨げないなら、わたしは自ら進んで神のために死ぬ、と。あなたがたに勧めます。わたしに対して、時をわきまえない好意となってはなりません。わたしが獣のえじきとなるのを許しなさい。獣によって、神に達することができるのです。わたしは神の小麦であって、獣の歯にひかれます。キリストの清いパンとして見いださ

れるためです。4:2 むしろ、獣たちの機嫌をとりなさい。獣たちがわたしの墓となり、わたしのからだを何一つ残さないためです。わたしが眠りについたあと、だれかの重荷とならないためです。世がわたしのからださえ見なくなるとき、そのとき、わたしはまことにイエス・キリストの弟子となるのです。わたしのためにキリストに願い求めなさい。これらの道具によって、わたしがいけにえとして見いだされるためです。4:3 わたしは、ペテロやパウロのように、あなたがたに命じるのではありません。彼らは使徒でしたが、わたしは罪に定められた者です。彼らは自由な者でしたが、わたしは今に至るまで奴隷です。しかし、もし苦しみを受けるなら、わたしはイエス・キリストに解き放たれた者となるでしょう。そして、この方にあって自由な者としてよみがえるでしょう。今、わたしは縛られて、何も欲しがらないことを学んでいます。

5:1 シリヤからローマまで、陸でも海でも、夜も昼も、わたしは十頭の豹に縛りつけられて、獣と戦っています。豹とは、兵士の一隊のことです。彼らは、親切にされても、かえって悪くなります。しかし、彼らの不当な仕打ちのうちに、わたしはいっそう弟子となっていきます。けれども、それで義とされているわけではありません。5:2 わたしのために備えられた獣たちから、わたしが喜びを得ることができますように。わたしは、獣たちがわたしに対してすばやいものであるよう祈ります。わたしは獣たちの機嫌をとって、すばやくわたしを食い尽くすようにさせます。ある人々に対しては、おじけづいて触れなかったようなことのないようにです。たとえ獣たちが嫌がって望まなくても、わたしのほうから無理に向かわせます。5:3 わたしを許しなさい。何がわたしの益になるか、わたしは知っています。今ようやく、わたしは弟子となり始めています。見えるものも見えないものも、何ものもわたしをねたむことがありませんように。わたしがイエス・キリストに達するためです。火も、十字架も、獣との組み打ちも、身を切り裂かれることも、引き裂かれることも、わたしに襲いかかりなさい。骨を散らされることも、手足を断ち切られることも、全身をひき砕かれることも、悪魔のひどい責め苦も、襲いかかりなさい。ただ、わたしがイエス・キリストに達するためです。

6:1 世の果ても、この世の王国も、わたしには何の益にもなりません。地の果てを治めるよりも、キリスト・イエスに向かって死ぬほうが、わたしには良いのです。わたしたちのために死なれたあの方を、わたしは求めています。わたしたちのゆえによみがえられたあの方を、わたしは望んでいます。産みの苦しみが、わたしに迫っているのです。6:2 兄弟たちよ、わたしを許しなさい。わたしが生きるのを妨げてはなりません。わたしが死ぬことを望んではなりません。神のものとなることを望む者を、世に引き渡してはなりません。物質によって欺いてはなりません。わたしが清い光を受けるのを許しなさい。そこに着いてこそ、わたしは人となるのです。6:3 わたしが、わたしの神の受難にならう者となるのを許しなさい。だれでも、この方を自分のうちに持っているなら、わたしが何を望んでいるかを悟りなさい。そして、わたしに強く迫っているものを知って、わたしと苦しみを共にしなさい。

7:1 この世の君は、わたしを奪い去り、神に向かうわたしの思いを損なおうとしています。ですから、その場に居合わせるあなたがたのうちのだれも、彼に手を貸してはなりません。むしろ、わたしの側に、つまり神の側に立ちなさい。イエス・キリストを語りながら、世を欲しがってはなりません。7:2 そねみが、あなたがたのうちに住んではなりません。たとえわたしがそちらに着いて、あなたがたに勧めても、わたしに聞き従ってはなりません。むしろ、今あなたがたに書いていることに聞き従いなさい。実際、わたしは生きているうちに、死ぬことを恋い慕いつつ、あなたがたに書いているのです。わたしの恋い慕う心は、十字架につけられました。わたしのうちには、物質を愛する火はありません。ただ、生ける水が、わたしのうちで語り、内側からわたしに「父のもとへ来なさい」と言っています。7:3 わたしは、朽ちる食べ物も、この世の生活の快楽も喜びません。わたしが望むのは神のパンです。それは、ダビデの子孫から出た方、イエス・キリストの肉です。また、飲み物として、この方の血を望みます。それは朽ちない愛です。

8:1 わたしは、もはや人にしたがって生きることを望みません。あなたがたが望むなら、そうなるでしょう。望みなさい。あなたがたも望まれる者となるためです。8:2 この短い手紙によって、あなたがたにお願いします。わたしを信じなさ

い。わたしがまことを語っていることを、イエス・キリストがあなたがたに明らかにしてくださるでしょう。この方は偽りのない口です。父は、この口によって、まことに語られました。8:3わたしが達することができるよう、わたしのために求めなさい。わたしは、肉においてではなく、神の思いにしたがって、あなたがたに書きました。わたしが苦しみを受けるなら、あなたがたがそれを望んだのです。わたしが失格とされるなら、あなたがたがわたしを憎んだのです。

9:1あなたがたの祈りのうちに、シリヤにある教会を覚えていなさい。その教会は、わたしに代わって、神を羊飼いとしています。イエス・キリストだけが、あなたがたの愛と共に、その教会を監督してくださるでしょう。9:2しかし、わたしは、その一員と呼ばれることを恥じています。実際、わたしは、そこの信者たちの中で最も小さい者、月足らずに生まれた者なので、それにふさわしくありません。しかし、神に達するなら、ひとかどの者となるあわれみを受けているのです。9:3わたしの霊と、諸教会の愛が、あなたがたにあいさつを送っています。それらの教会は、わたしを通りすがりの者としてではなく、イエス・キリストの名のゆえに迎えてくれました。実際、わたしが肉において通る道沿いにない教会も、町ごとに、わたしより先に行ってくれたのです。

10:1わたしは、これらのことを、スミルナから、幸いと呼ばれるにふさわしいエペソ人たちによって、あなたがたに書き送ります。ほかの多くの人々と共に、クロコスもわたしと一緒にいます。わたしにとって慕わしい名です。10:2わたしより先に、シリヤからローマへ、神の栄光のために向かった人々については、あなたがたがもう知っていると信じます。その人々に、わたしが近くまで来ていることを知らせなさい。実際、彼らは皆、神にもあなたがたにもふさわしい人々です。あなたがたは、すべてにおいて彼らを休ませるのがふさわしいのです。10:3わたしは、八月二十四日に、これらのことをあなたがたに書きました。イエス・キリストの忍耐のうちに、最後までお元気で。

訳注

1 多くの写本や訳は『キリストの律法を守る』と読む。
2 古い訳には『恵み』でなく『終わり』と読むものがある。

ヒラデルヒヤ人への手紙　あいさつ、1〜11章　わたしの記録はイエス・キリスト

0:1 テオフォロスとも呼ばれるイグナティオスから、父なる神と主イエス・キリストの教会へ。この教会は、アジヤのヒラデルヒヤにあって、あわれみを受けています。神にある一致のうちに据えられ、わたしたちの主の受難と復活を、揺るがずに喜んでいます。あらゆるあわれみのうちに、確信に満たされています。わたしは、イエス・キリストの血にあって、この教会にあいさつを送ります。その血こそ、とこしえの、変わることのない喜びです。とりわけ、教会の人々が、監督と、監督と共にいる長老たちと執事たちと一つであるならばです。長老たちと執事たちは、イエス・キリストの思いのうちに任じられた人々です。キリストは、ご自分のみこころにしたがって、ご自分の聖霊によって、彼らを堅く立てられました。

1:1 わたしは、この監督について、次のことを知りました。彼が全体にかかわる務めを自分のものとしたのは、自分からでも、人々によってでもありません。虚栄からでもありません。父なる神と主イエス・キリストの愛のうちにです。わたしは、彼の寛容に心を打たれています。彼は、黙っていても、むなしいことを語る者たちよりも多くのことができるのです。1:2 実際、彼は、琴が弦に合わさっているように、戒めに合わさっています。ですから、わたしの魂は、神に向かう彼の思いを幸いだとたたえます。それが徳に富み、完全であることを知ったからです。また、生ける神のあらゆる寛容のうちにある、彼の動じない心と、怒らない心をたたえます。

2:1 ですから、真理の光の子供たちよ、分裂と悪い教えを避けなさい。羊飼いのいるところに、羊としてついていきなさい。2:2 実際、もっともらしいおおかみが大勢いて、悪い快楽によって、神の道を走る人々をとりこにしています。しかし、あなたがたが一つになっているところには、彼らの居場所はありません。

3:1 悪い草を断ちなさい。それは、イエス・キリストが育てておられないものです。彼らは、父がお植えになったものではないからです。わたしは、あなたがたのところに分裂を見いだしたというのではありません。むしろ、こし分けられたことを見いだしたのです。3:2 実際、神のものであり、イエス・キリストのものである人々は皆、監督と共にいます。また、悔い改めて、教会が一つであるところへ来る人々は皆、その人々も神のものとなるでしょう。イエス・キリストにしたがって生きる者となるためです。3:3 わたしの兄弟たちよ、思い違いをしてはなりません。だれでも分裂を起こす者についていくなら、その人は神の国をつぐことはありません。だれでもよその思いのうちに歩むなら、その人は受難にあずかる者ではありません。

4:1 ですから、一つの聖餐を守るよう努めなさい。実際、わたしたちの主イエス・キリストの肉は一つです。その血との結びつきのための杯も一つです。祭壇も一つです。監督が一人であって、長老会と、わたしと同じしもべである執事たちと共にいるのと同じです。それは、あなたがたが何を行うにしても、神にしたがって行うためです。

5:1 わたしの兄弟たちよ、わたしは、あなたがたを愛するあまり、すっかり心を注ぎ出しています。そして、大いに喜びつつ、あなたがたに用心させています。いや、わたしではなく、イエス・キリストがです。わたしは、この方にあって縛られているので、かえっていっそう恐れています。まだ完全な者とされていないからです。しかし、あなたがたの祈りが、わたしを神に向けて完全な者としてくれるでしょう。わたしが、イエスの肉としての福音と、教会の長老会としての使徒たちに身を寄せて、あわれみによる分に達するためです。5:2 また、わたしたちは預言者たちをも愛しています。彼らも福音を指して告げ、この方に望みを置き、この方を待ち望んでいたからです。そして、この方を信じて救われました。イエス・キリストにあって一つとなっていたのです。彼らは、愛されるにふさわしく、驚嘆されるにふさわしい聖なる人々です。イエス・キリストから証しを受け、わたしたちに共通の望みの福音のうちに、共に数え入れられています。

6:1 だれかがあなたがたにユダヤ教を解き明かすなら、その人に聞いてはなりません。実際、割礼のある人からキリスト教を聞くほうが、割礼のない人からユダヤ教を聞くよりも良いのです。しかし、どちらもイエス・キリストについて語らないなら、彼らは、わたしにとっては墓碑であり、死人の墓です。そこには人の名が書かれているだけです。6:2 ですから、この世の君の悪だくみとわなを避けなさい。その思いに苦しめられて、愛のうちに弱くなることのないためです。むしろ、皆、分かたれない心で一つ所に集まりなさい。6:3 わたしは、わたしの神に感謝します。あなたがたに対して、わたしには正しい良心があるからです。ひそかにも公にも、わたしが小さなことでも大きなことでもだれかに重荷を負わせたと、誇れる人はいません。また、わたしがその中にいて語ったすべての人々についても、わたしは祈ります。彼らが、それを自分を責める証しとすることのないようにです。

7:1 実際、ある人々が肉においてわたしを惑わそうとしたとしても、御霊は惑わされません。神から出ているからです。御霊は、どこからきて、どこへ行くかを知っておられるのです。そして、隠れたことを明らかにされます。わたしは、あなたがたのあいだにいたとき、叫びました。大きな声で、神の声で、「監督と長老会と執事たちに心を留めなさい」と語ったのです。7:2 ある人々は、わたしがある者たちの分裂を前もって知っていて、こう言ったのだと疑いました。しかし、わたしがそのうちにあって縛られている方が、わたしの証人です。わたしは、人の肉から、それを知ったのではありません。御霊が宣べ伝えて、こう言われたのです。「監督を離れては何も行ってはなりません。あなたがたの肉を神の宮として守りなさい。結びつきを愛しなさい。分裂を避けなさい。イエス・キリストにならう者となりなさい。この方も、ご自分の父にならわれたのと同じです」。

8:1 ですから、わたしは、結びつきのために整えられた人として、自分にできることをしていたのです。分裂と怒りのあるところに、神は住まわれません。ですから、主は、悔い改めるすべての人を赦されます。悔い改めて、神にあって一つであることと、監督の会議とに立ち帰るならばです。わたしは、イエス・キリストの恵みを信じています。この方は、あなたがたからすべての縄目を解かれるでしょう。8:2 また、何事も党派心からではなく、キリストに学ぶことにしたがって行うよう、あなたがたに勧めます。わたしは、ある人々がこう言うのを聞いたからです。「記録の中に見いださないなら、福音の中にあっても、わたしは信じない」。そこで、わたしが彼らに「書いてある」と言うと、彼らは「それこそが問題なのだ」と答えました。しかし、わたしにとって、記録とはイエス・キリストです。侵されることのない記録とは、この方の十字架と死と復活、そしてこの方による信仰です。わたしは、これらのうちに、あなたがたの祈りによって義とされることを望んでいます。

9:1 祭司たちも良いものです。しかし、大祭司はさらにまさっています。この方は、至聖所をゆだねられ、ただこの方だけが、神の隠れたことをゆだねられております。この方は父の門であって、アブラハムもイサクもヤコブも、預言者たちも使徒たちも教会も、この門を通って入ります。これらはすべて、神にあって一つであることへと向かいます。9:2 しかし、福音には、とりわけすぐれたものがあります。救い主、わたしたちの主イエス・キリストが来られたこと、その受難、そして復活です。実際、愛する預言者たちは、この方を指して告げました。しかし、福音は、朽ちないことの完成です。あなたがたが愛のうちに信じるなら、すべてが共に良いのです。

10:1 シリヤのアンテオケにある教会が平和になったと、わたしに知らせがありました。平和になったのは、あなたがたの祈りと、キリスト・イエスにあってあなたがたが持っている慈しみの心にしたがってのことです。ですから、神の教会であるあなたがたは、執事を一人選ぶのがふさわしいのです。その人が、神の使者としてそこへ行き、集まった人々と共に喜び、御名をあがめるためです。10:2 このような務めにふさわしい者とされる人は、イエス・キリストにあって幸いです。あなたがたも栄光を受けるでしょう。あなたがたが望むなら、神の御名のためにそうすることは、できないことではありません。最も近い教会が監督たちを送り、ほかの教会が長老たちと執事たちを送ったのと同じです。

11:1 キリキヤ出身の執事フィロンについて。彼は評判のよい人で、今も、神のことばにおいてわたしに仕えています。選ばれた人レオス・アガトプスと共にです。アガトプスは、この世の生活に別れを告げて、シリヤからわたしについてき

ています。この二人も、あなたがたのことを証ししています。わたしも、あなたがたのために神に感謝します。あなたがたが彼らを迎えてくれたからです。主があなたがたを迎えてくださるのと同じです。しかし、彼らを侮った者たちは、イエス・キリストの恵みのうちにあがなわれますように。11:2 トロアスにいる兄弟たちの愛が、あなたがたにあいさつを送っています。わたしは、そこから、ブルスによって、あなたがたに書いています。ブルスは、エペソ人とスミルナ人から、誉れのしるしとして、わたしと共に遣わされた人です。主イエス・キリストは、彼らに誉れを与えられるでしょう。彼らは、肉と魂と霊、信仰と愛と一致のうちに、この方に望みを置いています。わたしたちに共通の望みであるキリスト・イエスにあって、お元気で。

スミルナ人への手紙　あいさつ、1〜13章　まことに苦しまれた主

0:1 テオフォロスとも呼ばれるイグナティオスから、父なる神と、愛されている方イエス・キリストの教会へ。この教会は、あわれみによってあらゆる賜物を授けられ、信仰と愛に満たされ、どの賜物にも欠けるところがありません。このうえなく神にかない、聖なるものを担う教会で、アジヤのスミルナにあります。わたしは、傷のない霊と神のことばのうちに、この教会に心からあいさつを送ります。

1:1 わたしは、あなたがたをこれほど賢くしてくださった神、イエス・キリストに栄光を帰します。実際、わたしは、あなたがたが動じない信仰のうちに整えられていることを見て取りました。あなたがたは、肉においても霊においても、主イエス・キリストの十字架に釘づけにされているかのようです。キリストの血にあって、愛のうちに据えられています。わたしたちの主について、確信に満たされています。この方は、肉においては、まことにダビデの家系から出た方です。神のみこころと力にしたがって、神の子である方です。まことに処女からお生まれになり、ヨハネからバプテスマを受けられました。すべての正しいことが、この方によって成就されるためです。1:2 この方は、ポンテオ・ピラトと領主ヘロデのもとで、わたしたちのために、まことに肉において釘づけにされました。わたしたちは、その実から、すなわち神に幸いとされたこの方の受難から出た者です。この方が釘づけにされたのは、復活によって、とこしえに旗をあげられるためです。ご自分の聖なる者たち、信じる者たちに向けて、旗をあげられるためです。ユダヤ人のあいだにいても、異邦人のあいだにいても、ご自分の教会の一つのからだのうちにいる者たちに向けてです。

2:1 実際、この方は、これらすべての苦しみを、わたしたちのために受けられました。わたしたちが救われるためです。そして、まことに苦しみを受けられました。まことにご自分をよみがえらせられたのと同じです。ある不信者たちが言うように、苦しみを受けたのは見せかけだった、というのではありません。見せかけなのは、彼ら自身のほうです。彼らが考えているとおりのことが、彼らの身にも起こるでしょう。彼らは、からだのない、悪霊のような者となるのです。

3:1 わたしは、この方が復活の後にも肉のうちにおられることを知っており、信じているのです。3:2 この方は、ペテロとその仲間たちのところに来られたとき、彼らに言われました。「手に取り、わたしにさわって、わたしがからだのない悪霊ではないことを見なさい」。すると、彼らはすぐにこの方にさわり、この方の肉と霊[1]とに結び合わされて、信じました。それゆえ、彼らは死をさえ侮りました。そして、死にまさる者として見いだされました。3:3 また、この方は、復活の後、霊においては父と一つになっておられながら、肉の者として彼らと共に食べ、共に飲まれました。

4:1 愛する者たちよ、あなたがたもそのとおりであることを知っていながら、わたしは、これらのことを勧めます。わたしは、人の姿をした獣について、前もってあなたがたに用心させているのです。あなたがたは、彼らを受け入れてはならないだけでなく、できるなら会ってもなりません。ただ、彼らがどうにかして悔い改めるならと、彼らのために祈りなさい。それは難しいことです。しかし、このことについては、わたしたちのまことのいのちであるイエス・キリストが、権威を持っておられます。4:2 実際、わたしたちの主がこれらのことを見せかけだけでなさったのなら、わたしも見せかけだけで縛られていることになります。それなら、なぜわたしは、自分を死に引き渡してしまったのでしょうか。火に、剣に、獣に引き渡したのでしょうか。しかし、剣の近くにいることは、神の近くにいることです。獣のただ中にいることは、神のただ中にいることです。ただ、イエス・キリストの御名にあって、この方と共に苦しむために、わたしはすべてを耐え忍んでいます。完全な人であるこの方が、わたしを強くしてくださるのです。

5:1 ある人々は、真理よりも死の弁護をする者となって、知らずにこの方を否んでいます。いや、むしろ、この方から否まれたのです。預言も、モーセの律法も、彼らを説き伏せませんでした。それどころか、今に至るまで、福音も、わたしたち一人ひとりの苦しみも、彼らを説き伏せていません。5:2 実際、彼らは、わたしたちについても同じように考えています。だれかが、わたしをほめても、わたしの主をののしるなら、わたしに何の益があるというのでしょうか。その人は、この方が肉を担う方であることを告白しないのです。そのように言う者は、この方を完全に否んでおり、自分こそ死体を担う者です。5:3 彼らの名は、信仰のない名なので、書き記さないことにしました。それどころか、彼らが悔い改めて受難に立ち帰るまでは、わたしが彼らのことを思い起こすことさえありませんように。受難こそ、わたしたちの復活です。

6:1 だれも思い違いをしてはなりません。天上のものも、御使たちの栄光も、見える支配者も見えない支配者も、キリストの血を信じないなら、さばきを免れません。受け入れることのできる者は、受け入れなさい。だれも、地位のために高ぶってはなりません。実際、すべては信仰と愛です。この二つにまさるものは何もありません。6:2 わたしたちに来たイエス・キリストの恵みについて、異なる考えを持つ者たちをよく見なさい。彼らが、どれほど神の思いに逆らっているかを見なさい。彼らは、愛を心にかけません。やもめのことも、みなしごのことも、苦しんでいる人のことも心にかけません。捕らわれている人や解き放たれた人のことも、飢えている人や渇いている人のことも心にかけません。

7:1 彼らは、聖餐と祈りから遠ざかっています。聖餐が、わたしたちの救い主イエス・キリストの肉であることを告白しないからです。その肉は、わたしたちの罪のために苦しみを受け、父が慈しみによってよみがえらせられたものです。ですから、神の賜物に反対する者たちは、論じ合いながら死んでいきます。しかし、彼らは愛するほうがよかったのです。彼らも復活するためです。7:2 このような者たちからは遠ざかるのがふさわしいのです。ひそかにも公にも彼らについて語らず、預言者たちに、とりわけ福音に心を留めるのがふさわしいのです。福音のうちに、受難はわたしたちに明らかにされ、復活は完全に成し遂げられています。分裂を、悪の始まりとして避けなさい。

8:1 皆、監督についていきなさい。イエス・キリストが父についていかれたようにです。長老会には、使徒たちについていくようについていきなさい。執事たちを、神の戒めとして敬いなさい。だれも、監督を離れて、教会にかかわることを何も行ってはなりません。監督のもとで行われる聖餐、あるいは監督がゆだねる人のもとで行われる聖餐を、確かな聖餐とみなしなさい。8:2 監督が現れるところには、会衆もいなさい。イエス・キリストがおられるところに、公同の教会があるのと同じです。監督を離れて、バプテスマを授けることも、愛餐を行うことも許されていません。しかし、監督が良いと認めることは、神にも喜ばれることです。あなたがたが行うすべてのことが、安全で確かなものとなるためです。

9:1 これからは、わたしたちが正気に返るのが理にかなっています。まだ、神に向かって悔い改める時があるうちにです。神と監督を重んじることは、良いことです。監督に誉れを与える者は、神から誉れを受けています。監督に隠れて何かを行う者は、悪魔に仕えているのです。9:2 ですから、すべてのことが、恵みのうちに、あなたがたにあふれるようにしなさい。実際、あなたがたはそれにふさわしいのです。あなたがたは、あらゆる点でわたしを休ませてくれました。イエス・キリストも、あなたがたを休ませてくださいますように。あなたがたは、わたしがいないときも、いるときも、わたしを愛してくれました。神が、あなたがたへの報いです。この方のゆえにすべてを耐え忍んで、あなたがたはこの方に達するでしょう。

10:1 フィロンとレオス・アガトプスは、神のために、わたしについてきました。あなたがたが、彼らを神の執事として迎えてくれたのは、良いことでした。彼らも、あなたがたのために主に感謝しています。あなたがたが、あらゆる仕方で彼らを休ませてくれたからです。あなたがたにとって、何一つ失われることはありません。10:2 わたしの霊と、わたしの鎖は、あなたがたのために身をささげるものです。あなたがたは、この鎖を見下さず、恥とも思いませんでした。完全な望みであるイエス・キリストも、あなたがたを恥とはされないでしょう。

11:1 あなたがたの祈りは、シリヤのアンテオケにある教会に届きました。わたしは、このうえなく神にかなう鎖に縛られて、そこから来た者として、すべての人にあいさつを送ります。わたしは、そこの者であるにはふさわしくありませ

ん。その人々の中で最も小さい者だからです。しかし、みこころにしたがって、ふさわしい者とされました。自分でそうと自覚しているからではなく、神の恵みによってです。わたしは、この恵みが、完全なかたちでわたしに与えられるよう祈ります。あなたがたの祈りのうちに、神に達するためです。11:2 ですから、あなたがたの教会は、神の誉れのために、神の使者を選ぶのがふさわしいのです。あなたがたの働きが、地においても天においても完全なものとなるためです。その人がシリヤに着いて、彼らと共に喜ぶためです。彼らが平和になり、本来の大きさを取り戻し、本来のからだが回復されたことを喜ぶためです。11:3 ですから、あなたがたのうちのだれかを、手紙を持たせて送ることは、神にふさわしいことだと、わたしには思えました。神にしたがって彼らに与えられた穏やかな天気を、その人が共にたたえるためです。また、彼らがあなたがたの祈りによって、すでに港に達したことを、共にたたえるためです。あなたがたは完全な者なのですから、完全なことを考えなさい。実際、あなたがたが善を行おうと望むなら、神はそれをかなえようと備えておられます。

12:1 トロアスにいる兄弟たちの愛が、あなたがたにあいさつを送っています。わたしは、そこから、ブルスによって、あなたがたに書いています。あなたがたは、あなたがたの兄弟であるエペソ人と共に、彼をわたしと一緒に遣わしてくれました。彼は、あらゆる点でわたしを休ませてくれました。皆が、神に仕える務めの見本である彼にならえばよいのにと思います。恵みが、あらゆる点で彼にいるでしょう。12:2 わたしは、神にふさわしい監督と、神にかなう長老会と、わたしと同じしもべである執事たちに、あいさつを送ります。また、すべての人に、一人ひとりにも、全体にも、あいさつを送ります。イエス・キリストの御名と、その肉と血、受難と復活にあってです。その復活は、肉のものでもあり、霊のものでもあります。神にあって一つであり、あなたがたとも一つであるうちにです。恵みと、あわれみと、平和と、忍耐が、いつもあなたがたにありますように。

13:1 わたしは、わたしの兄弟たちの家の人々に、妻たちや子供たちと共に、あいさつを送ります。また、やもめと呼ばれているおとめたちにも、あいさつを送ります。どうか、父の力のうちに、お元気で。わたしと共にいるフィロンが、あなたがたにあいさつを送っています。13:2 わたしは、タウイアの家にあいさつを送ります。彼女が、肉のものでも霊のものでもある信仰と愛のうちに、据えられているよう祈ります。わたしにとって慕わしい名であるアルケに、あいさつを送ります。並ぶ者のないダフノスと、エウテクノスと、すべての人々に、一人ひとり名を挙げてあいさつを送ります。神の恵みのうちに、お元気で。

訳注

1 古い訳の一つは『霊』でなく『血』と読む。

ポリュカルポスへの手紙　あいさつ、1〜8章　打たれる金床のように

0:1 テオフォロスとも呼ばれるイグナティオスから、スミルナ人の教会の監督ポリュカルポスへ。彼は監督であるよりも、むしろ父なる神と主イエス・キリストに監督されている人です。わたしは、彼に心からあいさつを送ります。

1:1 神にあるあなたの思いは、動じない岩の上に据えられているかのようです。わたしはそれを喜んで受け入れ、あなたの傷のない顔を見るにふさわしい者とされて、大いに神をあがめます。神にあって、わたしがあなたから喜びを得ることができますように。1:2 わたしは、あなたが身にまとっている恵みにあって、走りにいっそう力を加えるよう、あなたに勧めます。また、すべての人に勧めるよう勧めます。彼らが救われるためです。肉のことにも霊のことにも、あらゆる心配りをして、あなたの地位にふさわしく務めを果たしなさい。結びつきに気を配りなさい。それにまさるものは何もありません。主もあなたを負ってくださっているように、すべての人を負いなさい。愛をもって、すべての人を忍びなさい。あなたが今そうしているとおりです。1:3 絶えず祈ることに時をささげなさい。今持っているよりも多くの悟りを求めなさい。眠らない霊を自分のものとして、目を覚ましていなさい。神に似た心にしたがって、一人ひとりに語りかけなさい。完全な競技者として、すべての人の病を負いなさい。労苦が多いところには、得るものも多いのです。

2:1 良い弟子たちを愛するのなら、それはあなたの手柄にはなりません。むしろ、もっと害毒のある者たちを、柔和のうちに従わせなさい。すべての傷が、同じ膏薬で治るわけではありません。発作は湿布で鎮めなさい。2:2 あらゆることにおいて、へびのように賢くなりなさい。また、いつまでも、はとのように素直でありなさい。あなたが肉の者であり、霊の者でもあるのは、目の前に現れるものをやさしく扱うためです。見えないものについては、それがあなたに現されるよう求めなさい。あなたが何一つ欠けることなく、あらゆる賜物にあふれるためです。2:3 舵取りが風を求め、嵐にあう者が港を求めるように、時はあなたを求めています。神に達するためです。神の競技者として、身を慎みなさい。賞品は、朽ちないことと永遠のいのちです。あなたも、それを確信しています。わたしは、あらゆる点で、あなたのために身をささげる者です。あなたが愛してくれたわたしの鎖も同じです。

3:1 信用できる者のように見えて、異なることを教える者たちが、あなたをうろたえさせてはなりません。打たれる金床のように、しっかりと立ちなさい。打たれながら勝つのは、偉大な競技者のすることです。とりわけ、わたしたちは神のために、すべてを耐え忍ばなければなりません。神も、わたしたちを耐え忍んでくださるためです。3:2 今よりも、さらに熱心になりなさい。時をよく見極めなさい。時を超えた方を待ち望みなさい。時のない方、見えない方、わたしたちのために見える方。さわることのできない方、苦しみを受けない方、わたしたちのために苦しみを受けうる方。わたしたちのために、あらゆる仕方で耐え忍ばれた方です。

4:1 やもめたちが、なおざりにされてはなりません。主に次いで、あなたが彼女たちの世話をする者となりなさい。あなたの思いなしに、何事も行われてはなりません。また、あなたも、神なしに何も行ってはなりません。もっとも、あなたはそうしてもいません。落ち着いていなさい。4:2 集まりが、もっと頻繁に開かれるようにしなさい。すべての人を、名を挙げて捜しなさい。4:3 男の奴隷も女の奴隷も、見下してはなりません。しかし、彼らも高ぶってはなりません。むしろ、神の栄光のために、ますます励んで仕えなさい。神から、もっとすぐれた自由を得るためです。教会の共同の資金で自由にされることを、恋い慕ってはなりません。欲望の奴隷と見いだされないためです。

5:1 悪だくみを避けなさい。いや、むしろ、それについて説き聞かせなさい。わたしの姉妹たちには、主を愛し、肉においても霊においても夫に満足するよう語りなさい。同じように、わたしの兄弟たちにも、イエス・キリストの御名にあっ

て、妻を愛するよう命じなさい。主が教会を愛しておられるようにです。5:2 主の肉の誉れのために、清さのうちにとどまることのできる人がいるなら、その人は誇ることなくとどまりなさい。誇るなら、その人は滅びたのです。そのことが監督のほかにも知られるなら、その清さは損なわれています。めとる男も嫁ぐ女も、監督の思いのもとで結びつきを持つのがふさわしいのです。結婚が、欲望にしたがってではなく、主にしたがったものとなるためです。すべてのことが、神の誉れのために行われるようにしなさい。

6:1 監督に心を留めなさい。神も、あなたがたに心を留めてくださるためです。わたしは、監督、長老たち、執事たちに従う人々のために、身をささげる者です。わたしも、神にあって、彼らと共に受け分にあずかることができますように。互いに共に労苦し、共に戦い、共に走り、共に苦しみ、共に眠り、共に起きなさい。神の管理人、補佐役、しもべとしてです。6:2 あなたがたが兵として仕えている方を喜ばせなさい。その方から、あなたがたは給料も受けているのです。あなたがたのうちのだれも、脱走兵と見いだされてはなりません。あなたがたのバプテスマを、盾としてとどめておきなさい。信仰をかぶととし、愛を槍とし、忍耐を全身の武具としなさい。あなたがたの行いを、あなたがたの預け金としなさい。それにふさわしい払い戻しを、あなたがたが受け取るためです。ですから、柔和のうちに、互いに辛抱強くありなさい。神が、あなたがたにそうしておられるようにです。わたしが、いつもあなたがたから喜びを得ることができますように。

7:1 シリヤのアンテオケにある教会が、あなたがたの祈りのゆえに平和になっていると、わたしに知らされました。それで、わたしも、神にある思い煩いのない心で、いっそう心強くなりました。ただ、苦しみを受けることによって、神に達するならばです。それは、復活のときに、わたしがあなたがたの弟子と見いだされるためです[1]。7:2 このうえなく神に幸いとされたポリュカルポスよ、このうえなく神にかなう協議の集まりを開くのがふさわしいのです。そして、労をいとわず、あなたがたが心から愛している人を一人選ぶことです。神の急使と呼ばれることのできる人です。その人を、この務めにふさわしい者とすることです。その人がシリヤへ行き、神の栄光のために、あなたがたの労をいとわない愛をたたえるためです。7:3 キリスト者は、自分自身に対する権威を持っていません。神のために時をささげているのです。これは神のわざであり、あなたがたのわざでもあります。あなたがたがそれを完成させるときにです。実際、わたしは恵みに信頼して、あなたがたが神にふさわしい善い行いへの備えができていると信じています。わたしは、あなたがたが真実にひたむきであることを知っているので、短い手紙によって、あなたがたに勧めました。

8:1 わたしは、すべての教会に手紙を書くことができませんでした。みこころが命じるとおり、急にトロアスからネアポリスへ船出することになったからです。ですから、あなたは、神の思いを自分のものとしている者として、この先にある教会に手紙を書きなさい。その教会も同じことをするためです。使いを徒歩で送ることのできる教会は使いを送り、ほかの教会は、あなたが送る人々に手紙を託すのです。あなたがたが、永遠のわざによって栄光を受けるためです。あなたは、それをするにふさわしい人だからです。8:2 わたしは、すべての人に名を挙げてあいさつを送ります。エピトロポスの妻にも、彼女とその子供たちの家の人々すべてと共に、あいさつを送ります。わたしの愛するアッタロスに、あいさつを送ります。シリヤへ行くにふさわしい者とされる人に、あいさつを送ります。恵みは、いつまでもその人と共にあり、その人を送るポリュカルポスと共にあるでしょう。8:3 わたしは、あなたがたが、わたしたちの神イエス・キリストにあって、いつまでも元気でいるよう祈ります。この方にあって、神にあって一つであることのうちに、また神の監督のもとに、とどまり続けなさい。わたしにとって慕わしい名であるアルケに、あいさつを送ります。主にあって、お元気で。

訳注

1 『あなたがたの願いによって弟子と見いだされる』と読む写本や訳もある。

イグナティオスの手紙

2026年11月23日版
著者　アンテオケのイグナティオス
制作　藤遥
発行　christian-classics-jp
公開　https://christian-classics-jp.github.io/site/ignatius/
原稿　https://github.com/christian-classics-jp/site/tree/master/books/ignatius
全文を、ギリシア語原文（Ἰγνατιόυ ἐπιστολαὶ）からAIを使って翻訳しました。
訳文はCC BY-SA 4.0で公開しています。引用した聖書の本文は含みません。